

## 日本の公共空間に設置された芸術作品に関する研究 作品の展開と主題を通して

A study on works of art installed in public spaces in Japan  
Through the development and theme of the work

○土田和香<sup>1</sup>, 大川碧望<sup>2</sup>, 佐藤慎也<sup>2</sup>

\*Waka Tsuchida<sup>1</sup>, Aono Okawa<sup>2</sup>, Shinya Satoh<sup>2</sup>

Abstract: Art works are installed in public spaces for the purpose of forming urban landscapes and improving local culture.

The works installed in public spaces can be said to reflect the background and trends of the times. The purpose of this research is to organize the development and consider the theme of the work.

### 1. 研究背景と目的

都市景観の形成や地域文化の向上などを目的として、公共空間に芸術作品が設置されている。これらは“パブリックアート”とも呼ばれ、行政機関及び民間企業などによるまちづくりの一環として取り入れられている。日本において、パブリックアートと称される以前から、彫刻などの芸術作品は公共空間に設置されてきた。そのかたちや素材、設置方法は時代によって多様に変化している。

公共空間に設置される芸術作品は、時代背景を映し出すものといえる。本研究では、その展開について整理し、作品の主題について考察することを目的とする。

既往研究は、パブリックアートが都市景観の印象に与える研究<sup>[1]</sup>などがあるが、作品の主題に着目しているものは少ない。本研究は、日本の公共空間に設置された芸術作品を一体的に整理し、その主題に着目する点に意義がある。

### 2. 研究対象

日本の公共空間に芸術作品が設置される背景は多様である。本研究では、人々の信仰の対象物としてつくられた仏像を、日本の公共空間に設置された芸術作品の起源とし、日本における仏像の誕生から現在までを対象に、公共空間に恒常設置された芸術作品の変遷を調査する。ここでの公共空間とは、屋内外に限らず、美術館やギャラリー以外の人々に開放されている公共的な空間を指す。また、本研究において、その主題とは、作品の設置者の主題を優先するものである。

### 3. 展開と主題

主要文献<sup>[2][3][4][5]</sup>を基に行った文献調査により、日本の公共空間に設置された芸術作品に関する展開を表1

にまとめる。作品形態によって、4つの時代に分類し、その主題について考察を行う。

#### 3.1 仏像の時代

飛鳥時代から江戸時代は仏像が誕生して発展した、仏像の時代といえる。552年、仏教が朝鮮半島から日本に伝えられたことにより、日本の仏像の歴史は始まった。当時、仏像が置かれた寺院は、人々にとって公共的な空間であった。仏像は信仰の対象であると同時に、美的観照の対象であったとされている。<sup>[2]</sup>

造形は、宗派や時代による多少の違いはあるが、如来や守護神などの架空の人物を象ったものがほとんどである。人々の身近に安置し、礼拝するため、また悟りの世界を視覚化し、市民の信仰を深めることが、仏像の主題であると考えられる。

#### 3.2 銅像の時代

明治時代、天皇を中心とする近代国家の建設にあたって、欧米に倣って国家に尽くした人物の銅像が建設された。<sup>[3]</sup>銅像化されたのは維新に貢献した人々や戦争の功労者など、ほぼ全て男性で、高い台座の上から睥睨するような権威的で威圧的な造形が見られる。

戦前に設置された銅像は、その時代の英雄などを象り、人々の指針として後世に残していくことが設置者の主題と考えられる。しかし、戦時中は金属供出のために、大半の銅像が武器に変わり、残された軍人の銅像も多くは戦後に撤去された。

戦後は、国粹主義や軍国主義が一扫され、「平和」「愛」「自由」といった抽象概念の象徴として、裸体像や母子像の銅像が登場した。戦時中に撤去された軍人の銅像の台座をそのまま利用した事例も少なくない。<sup>[4]</sup>

銅像の時代は、戦前と戦後で象られたものに変化が生じている。しかし、人々の暮らしの象徴をかたちにし、公共空間に設置することによって、市民の意識を

1: 日大理工・院(前)・建築、2: 日大理工・教員・建築

向上させるという共通の主題を持っていたといえる。また、公園や学校に設置されることが多く、この時代の作品は高い公共性を持っていたことが伺える。

### 3.3 野外彫刻の時代

高度経済成長期の1961年に行われた山口県の宇部市での彫刻コンペを境に、野外彫刻の時代へと展開していく。宇部市と神戸市がまちづくりのための野外彫刻コンペを始め、買い上げ作品が街に設置された。これを皮切りに、“彫刻によるまちづくり”が各地で行われるようになった。<sup>[5]</sup>

これまで作品は単体で設置されてきたが、ある地域に複数の作品を配置する設置方法が取り入れられるようになった。これにより、作品一つ一つの主題は作家に委ねられ、地域単位の「まちづくり」という大きな主題の下で作品の設置がなされるようになった。

しかし、この頃の野外彫刻は、素材が多様化する一方、社会制約に縛られ、型通りの作品が増加していった。また、無計画に設置され、メンテナンスがされずに破損する作品も多く、「彫刻公害」とも呼ばれた。<sup>[5]</sup>

### 3.4 パブリックアートの時代

1990年代以降、建設費の1%をアートに費やすことを目標とする海外のパブリックアートの概念が導入され、日本でも本格的に“パブリックアート”として街に作品が設置されるようになっていった。<sup>[5]</sup>

1991年の新宿都庁舎では、総工費1,569億円のうちの約1%である約16億円が作品に費やされた。また、1994年には、立川駅北口に109点ものパブリックアートを設置したファール立川が誕生し、地域を特徴付ける存在として作品が設置されている。これまでの野外彫刻への反省と、大規模な都市開発によって、都市開発事業と同時進行しながら、日本ではパブリックアートの計画的な配置がなされていった。

パブリックアートの主題は、野外彫刻と共通して、地域単位での「まちづくり」にあると考えられるが、近年、設置されている作品は、社会的制限が多いため、銅像や野外彫刻に見られた直接的な造形とは異なり、抽象的な造形の作品が多く見られる。また、単なるオブジェとしてではなく、公共空間における機能性を持つ作品や、その地域の歴史や文化を取り入れた作品など、市民に寄り添った作品も多い。

## 4. まとめ

日本において、公共空間に設置された芸術作品は時代の移り変わりとともに多様に変化してきた。信仰の対象物として誕生した仏像に始まり、もともと英雄を讃え、後世に残そうと設置していた作品は、平和や自由を求める人々の象徴へと変化を遂げた。現代においては、人々に寄り添い、街の装飾物ともなっている。

その主題は、古くは時代を象徴する設置者の主題があったのに対し、“彫刻によるまちづくり”の登場からは、地域単位のまちづくりという大きな主題の下で作品がつけられ、配置するかたちへと変化した。

日本の公共空間に設置される芸術作品は、どの時代も時代背景と密にあり、常に人々と関わり合うものであった。そのかたちやあり方は多様化している。

## 参考文献

- [1] 本山友衣, 羽生和紀:パブリックアートが都市景観の印象に与える影響, 人間・環境学会誌, 17巻2号, pp.1-10, 2015.2
- [2] 山口勉:新版 仏像 日本仏像史講義, 平凡社, 2020.6
- [3] 木下直之:銅像時代, 岩波書店, 2014.3
- [4] 田中修二:近代日本彫刻史, 国書刊行会, 2018.2
- [5] 柳澤有吾:パブリックアートの現在, かもがわ出版, 2017.4

表1. 日本の公共空間に設置された芸術作品の展開と分類

事例			背景		主な造形	作品形態
年代	作品	設置場所	年代	出来事		
609	釈迦如来坐像(飛鳥大仏)	奈良 飛鳥寺	552	仏教伝来 仏像誕生	如来・守護神など架空の人物	仏像
734	興福寺八部衆像 阿修羅	奈良 興福寺				
1164	千体千手観音菩薩像	京都 妙法院門跡通華王院本堂				
1203	金剛力士立像	奈良 東大寺				
1243	鎌倉大仏	鎌倉 高徳院				
1357	千手観音菩薩立像	大阪 千手寺				
1880	日本武尊像	金沢 兼六園	1868~1889	明治維新	軍人・当時の英雄などの実在する人物 権威的で威圧的	銅像
1893	大村益次郎像	東京 靖国神社				
1897	西郷隆盛像	東京 上野公園				
1900	楠木正成像	東京 皇居前広場				
1909	井伊直弼像	横浜 掃部山公園	1941~	太平洋戦争 金匱供出により多くの銅像が撤去		
1950	平和の群像	東京 三宅坂	1945	終戦	愛・平和・自由などの抽象概念 視覚像・母子像	
1955	長崎平和祈念像	長崎 平和記念公園				
1961	宇部市野外彫刻展	山口 宇部市	1955~1972	高度経済成長 彫刻によるまちづくり導入	異なる造形の集合 社会制約に縛られた型通りの造形	野外彫刻
1968	神戸須磨離宮公園 現代彫刻展	神戸 須磨離宮公園				
1973	野外彫刻 ながのミュージアム	長野				
1977	仙台市 彫刻のあるまちづくり	仙台				
1982	カナザワアートアベニュー	金沢				
1983	福岡市 彫刻のあるまちづくり	福岡				
1990	横浜ビジネスパーク	横浜	1990~	海外のパブリックアートの概念導入	抽象的な造形 機能性を持つ作品 地域性を持つ作品	パブリックアート
1991	新宿都庁舎	新宿				
1994	ファール立川	東京 立川駅				
1995	新宿アイランド	東京 西新宿				
1997	ゆめおおおか	横浜 上大岡				
2005	モエレ沼公園	北海道 札幌				